

強者の戦略

【市民革命を比べてみる】

こんにちは、夏期講習の移動中、電車でうとうとしていたところを生徒に発見され、ちょっと恥ずかしい思いをした北林です。暑いですね、体調は万全ですか？熱中症には気をつけて、しっかり力をつけましょう。

さて、8月もそろそろ中盤にさしかかろうとしています。

大学別の模試をうけているころでもあると思います。今は偏差値や判定よりも、まずは自分の弱点をしっかりと洗い出すことが大切です。冷静に自らの力を判断し、今後の学習の指針としましょう。

世界史に関していえば、まだ論述問題に慣れていない人が多い時期だと思いますが、用語を問う問題は今の段階でも落とさないようにしてください。例えば東大の第3問、京大の第2問・第4問。こうしたところでミスを極力少なくしておくことが大事だと思います。知識の構築は怠ることのないように。

模試を受けて本格的な対策が必要だと感じた人は、ぜひ「東大スパルタン」「京大スパルタン」を学習に役立ててくださいね。 → spartan.kenshinkan.net

さて毎回おなじみの入試問題へのチャレンジです。

こちらは研伸館のテキストにも載っていますが、革命の比較の問題です。研伸館の夏期講習の講座でも別の市民革命の問題をやりました。市民革命の比較の問題は東大などで出題されています(スパルタンでやりましたね)。アメリカ・フランスに加え、イギリスの市民革命(清教徒革命・名誉革命)も確認しておきましょう。

問題

アメリカ独立革命とフランス革命を比較し、共通点と相違点を述べよ。なお解答にあたっては、革命の基本的宣言の中で表明された理念、革命の国際政治との関わり、および革命で生まれた政治体制のゆくえについて、必ず言及すること(400字以内)。

(85 一橋)